

※表面の続き

◇内容の具体化ぜひ ジャーナリスト 鳥越俊太郎さん

5野党党首会談の合意と安保法制廃止法案の提出、まさにビッグニュース、グッドニュースです。とくに私は、参院選で野党が統一候補をたててたかうことを強く主張してきました。民主党などのなかから異論がでて、正直なかばあきらめていました。このまま参院選は与党勢力に押し切られるのかと悲観的になっていましたが、この合意はそんな思いを吹き飛ばしてくれました。

参院選めざして熊本のような方式で臨んでいかなければ勝てないことは明らかです。自公で改憲ラインである3分の2をとらせることがないよう、ぜひ今回の内容の具体化をはかってほしい。

◇将来に重要な意味 ジャーナリスト 斎藤 貴男さん

非常に喜ばしいことです。確認された項目はどれも妥当なもので、これで絶望しなくてすむと感じています。いまの政治はひどすぎます。安倍首相は人の言うことに耳を貸さず、支配者意識に凝り固まっています。そうした思い上がり政府・与党の末端にまで広がっている。不祥事が続いているのも偶然ではありません。

米国の戦争に日本が付き従うための安全保障法制や憲法改悪には反対です。同時に、安倍政権によって社会全体が狂ってしまった状況をなんとかしなければいけません。

野党5党の政策には大きく異なる点もあるでしょう。その違いをいったん横に置いてでも一致団結することが、日本の将来に重要な意味を持ちます。

◇素直にうれしい「安保関連法に反対するママの会」発起人 西郷南海子さん

あの9月19日(2015年。安保関連法の採決強行)から、秋が終わり、冬が過ぎ、もう春になろうとしています。鉄は熱いうちに打てというのに、野党共闘の膠着状況は、たくさんのママを不安にさせました。

それでも、野党の接着剤になれるのは市民だと信じて、ママの会でも各地のメンバーが駆けずり回ってきました。今回やっと、話が公式にまとまったことは、素直にうれしいし、当然といえば当然です。「アベ政治を許しては、もう生きていけない」という声を国会にぶつけていきたい。

◇これからが「本番」 総がかり行動実行委員会(憲法共同センター) 小田川義和さん

戦争法廃止法案を共同提出したうえで、戦争法廃止と立憲主義の回復と大義での一致し、選挙協力の論議に入ること野党5党が合意した、と聞き、思わず「よし」と声をあげてしまいました。昨年9月の成立強行以降も、戦争法廃止の行動を繰り返し、「野党は共闘」の声をあげ続ける市民の声がやっと届いた、と思ったからです。国民連合政府構想を横においた共産党の粘りと努力も、感じました。

3月29日の戦争法施行が同じ日に公表されたように、せめぎあいは、これからが本番、と気を引き締めてもいます。強まるであろう野党共闘の意義を薄める動きに、総がかり行動、市民連合の共同をさらに深め、2000万署名をやり遂げ、参議院選挙で共闘の果実を实らせるために奮闘する決意です。

◇市民と野党一緒に 総がかり行動実行委員会(解釈で憲法9条を壊すな!実行委員会) 高田健さん

大歓迎の内容です。夏の参院選へ向けて、新たな運動の出発点になりました。昨年戦争法強行以来、全国各地で行動した多くの市民が望んだ「野党は共闘」の声を、政党のみなさんが受け止めた結果だと思っています。

私たちが思うような政党間の話し合いが進まず、心が折れそうになったこともありました。しかし「2000万署名」をはじめ、あきらめずに意思表明を続けたことがこのような形につながりました。

いよいよ市民と野党が一緒になって、戦争法廃止、安倍政権の暴走にストップをかけていく。うれしさと同時に緊張もしています。絶対に「戦後」を終わらせない。そのために私たちも全力をあげて行動を続けます。

◇勝利の条件整った 総がかり行動実行委員会(戦争をさせない1000人委員会) 福山真劫さん

5野党党首会談で確認された四つの事項は、いずれも素晴らしい中身です。われわれ総がかり行動実行委員会は、戦争法廃止と安倍政権退陣を求めてきましたし、「野党は共闘」「野党はがんばれ」と訴えてきました。安倍政権の打倒をめざすことや国政選挙で現与党と補完勢力を少数に追い込むとの合意は、総がかり行動の運動をさらに発展させる大きなインパクトになるものです。

今後、野党が共闘して選挙協力が本当に実現することを期待します。

戦争法を廃止に追い込もうと全国で取り組む「19日行動」や2000万署名運動を続けることはもちろんです。大集会をおこなうなど、野党共闘と市民が共同してたたかえば勝利できる条件が整いました。

全力をあげたい。

